



⑥ 京都で進む軍事強化

できます。「継戦能力を高める」とは、戦争で戦い続けることを意図しており、おおよそ戦争を回避することではない言葉を高市首相は述べているわけです。

弾薬に限って述べますが、自衛隊は2020年4月の時点で全国に1400棟もの火薬庫を保有しています。

2032年度ごろまでさらに130棟ほど新設する計画を進めています。2025年末のNHKの報道によれば、65棟について、場所は

自衛隊施設内に整備と決まったようで、北海道は16棟、九州では大分、宮崎、鹿児島のみ、合わせて19棟となっており、京都府では祝園弾薬庫に14棟、海上自衛隊舞鶴基地4棟で計18棟となります。「日本一の火薬庫新設数」となります。しかも「130棟ほど」ということで今後増えることを防衛省は否定していませんし、自衛隊施設外に用地取得するかもしれません。

大きな火薬庫を造る

く、サリンを積んだドローンの襲来とか自爆テロで突入してくる車両を食い止める、さらには「ミサイルの応酬」に耐える施設にしている計画のようです。

ですから、ある程度の直撃に耐える構造で、汚染された外気を遮る空調でもあり、さらに司令部機能は地下に置くということです。海上自衛隊舞鶴地方総監部の庁舎建て替えは「地上3階、地下2階」とあり、横須賀で完成した「地下作戦室」のようなものが造られることが想像できます。

「反撃」と称する「敵

「戦い続ける」出撃基地に

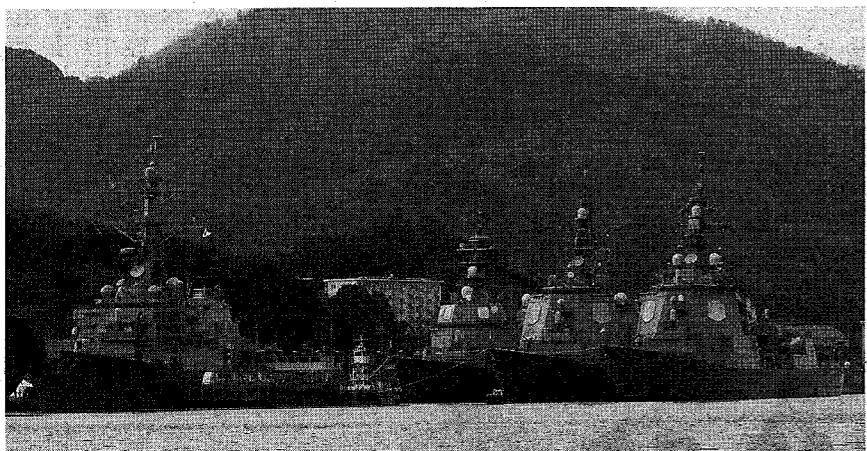
ため、休日も工事を行う急ぎ様ですが、三菱重工の既存のミサイルの能力向上型という新型ミサイルやレイセオン社のトマホーク巡航ミサイルを京都で保管・整備する計画があることをまだ多くの府民は知りません。

反撃想定した

基地の強靱化

「戦い続ける」わけですから「敵」からの攻撃も想定しているのでしょう。「強靱化」という項目で施設の建て替え工事がおこなわれます。「耐震工事」や「空調設備取付」だけな

基地攻撃「用のトマホークミサイルを装備する計画が進んでいて「みょうこう」「あたご」というように「あたご」という舞鶴に配備されたイージス艦の改修が予定されています。ミサイルの迎撃だけでなく、「敵」のミサイル基地を攻撃する出撃基地となるわけです。日米共同統合作戦司令部が作戦全体を指揮しても、一部の作戦は舞鶴にも割り当てられるのでしょう。どこか一部が「無力化」されても全体は戦い続ける「そんなネットワークで司令部が構成されるようです。」(京都平和委員会理事 長・片岡明)



日米のイージス艦が舞鶴に。(右から)「あたご」「みょうこう」、(左端)「フィッツジェラルド」。右から3隻目の護衛艦「ふゆづき」には12式地对艦誘導弾能力向上型(艦発型)が装備見込み